

ワンが、何故、シマクト  
 ウバ習得しーぶさんがんで  
 いれー、「精神ぬ脱植民地  
 化」とうか、色々あしが、  
 ワンが「おじいちゃん子」  
 「おばあちゃん子」やたんで  
 いる事、一番まぎさるはし。  
 ワンねー女親ぬ祖母  
 祖父んかい、いつペー愛  
 さつとーたん。童時分  
 祖母ぬ懐小んか入つち、  
 祖母祖父ぬシマクトウバぬ  
 ユンタク聞ちよーたん。シ  
 マクトウバぬ音、自分ぬ  
 近くんかい聞ちやーに、ふ  
 どういーたん。  
 ヤマトウぬ大学歩ちよー  
 る時、ワッター祖父がま  
 ーしみそーちゃん。祖父や  
 歌三弦踊い、いつペー達  
 者やみしえーたん。自分く  
 る三弦弾ちやーに歌歌て  
 い、録音し、うぬテープ流  
 さーに、朝夕踊ていめん  
 しえーたん。うぬ祖父めん  
 そーらんない、ワン周い  
 ぬシマクトウバぬ音ぬ  
 世界やいきらくなたん。

ウシーぬ

学習編 ①

2013  
10/20  
2447

しまくとばはじめやひら

知念 ウシ



うぬばす、祖母やまーだ  
 がんじゅうしみしえーたし  
 が、うぬ祖母めんそーらん  
 なれー、ワンが当ー前ん  
 い思とーたる世界、うぬ  
 音無ーんないんでいる事  
 わかやーに、心安安ーと  
 ー居らんなたん。  
 ワンねー、自分くる、う  
 ぬ音ぬ世界ちくいる事な  
 らん、子なしていん、  
 御先祖様ぬ言葉渡す事な  
 らん。あぬ音、あれーワ  
 ン大切な一部やん。あり無  
 ーんないねー、ワンやちや  
 ーないが、ぬーがら、身体  
 ぬ中んかい、空洞ぬあ  
 るふーじー。不安なたん。  
 自分ぬ空っぽな処、  
 自分くる埋みーる為なか  
 い、祖母祖父ぬ言葉、ワン

1966年、那覇市首里出身。むぬか  
 ちやー(ライター)。主な著書に「ウシ  
 がゆくー植民地主義を探検し、私をさが  
 す旅」(沖縄タイムス社)、「シランフー  
 ナー(知らんぶり)の暴力ー知念ウシ政  
 治発言集」(未来社)など。

祖父母の音 自分にも

にん話しぶさん、遣いぶさ  
 ん。あんすくとう、祖母ん  
 後追てい、言葉書ちとう  
 みたん。  
 祖母ん、4年前からーめ  
 へヤマトウグチ要約  
 シマクトウバを習得した  
 い理由は色々あるが、おじ  
 いちゃん子おばあちゃん子  
 だったことが大きい。祖父  
 母のシマクトウバの音を近  
 くに聞いて育つたのだ。  
 私が大学生の頃、祖父が  
 亡くなった。音楽と踊りが  
 好きな祖父は自分でサンシ  
 ンを弾いて歌って録音し、  
 それを流しながら、朝夕踊  
 っていた。祖父の死で私の  
 周りのシマクトウバの音の

んそーらんなどーん。祖母  
 祖父想いーねー、しからー  
 らん。うぬ代わいに、あぬ  
 音、自分ぬ物かいしーぶ  
 さん。自分から再生しーぶ  
 さん。うりが一番まぎさる  
 理由やがやあ。  
 ……………  
 音声も以下のホームペー  
 ジで紹介する。http://w  
 ww.okinawatimes.co.jp  
 /special/shimakutuba

世界が小さくなった。  
 当時祖母は健在だった  
 が、祖母まで失うと、私はこ  
 れまで当然だった世界がな  
 くなると気づき不安になつ  
 た。このままだと私は自分  
 でその音の世界をつくれな  
 い。子どもを持つても伝え  
 られない。自分の中の空洞  
 を感じた。それを埋めるた  
 めに、祖父母の言葉を話し  
 たい。祖父母が恋しい。彼ら  
 の代わりにあの音を自分の  
 ものにしたい。これが一番  
 大きな理由かもしれない。